

弁護士日記

大番長と国体

美 和 勇 夫

林とおる社長は、私と多治見高校時代の同窓生である。

今では小学校の庭にある鉄棒で、「さかあがり」も出来ないおじさんになっているが、高校一年生にして岐阜県代表の体操国体選手であり、鉄棒の「大車輪」、つり輪の「十字けんすい」はみごとなものであった。

毎年、運動会では、全校生徒の前で、体操の

恐ろしい人と高校時代一度もくちをきけた道理ではなかった。

「女とデレデレしとる」となんぐせをつけれ、つかまつたら最後、そのできの悪い子分どもに何をされるかわかったものではなかった。

体操は5(最高評価)であったけれども、他の科目は、なんせ授業にもろくに出席していなかったから「アカー」(落第点)に近い成績であった。多治見高校は、当時のきわめて出来の悪い、松野知事、へこにす県教育委員、校長らにより我々を最期に「時代逆行」の女子校にされてしまった

多治見北高ができた。いくらなんでも「番長ひとり」を落第させ、多治見女子高に残すわけにはいかなかった。

本人は、高三で国体に出場し、優秀な成績をあげ、早稲田大学の「推薦入学」を計算したが、あの未曾有の「伊勢湾台風」に襲われて、東海三県は、国体出場を自粛させられてしまった。

一方、早稲田に入った私は、ここでもあまり勉強をしない学生で、出席を取らない科目はほとんど、サボタージュと決めていた。

法。国体について説明せよ。

試験前のにわか勉強でかけたヤマが当たらず、か書かねばアカーだ。

「国体とは、国民体育大会のこと、戦後の昭和二十一年、焼け野原の国民に希望と勇気を与える為に、米軍の爆撃をうけなかった京都で第一回大会が開かれた。

の統治の体制」、すなわち明治憲法では「天皇主権」の統治、新憲法では「国民主権」のことである。

そんないいかげんな学生が大学四年になった時に急に「司法試験」を受ける気になって弁護士となり、

大番長は、最年少、市会議員当選。落選……を経てこの新報で、毎週「健筆」をふるっている。私にいつも「市長だ、なんだ」と言うが、やらせたら迫力のあるこの男の方がよほど適任であることを末筆につけ加えておこう。

(筆者は、多治見市上野町在住)